

テーマ3

開かれた都市計画

～専門家とアーバニストの領域、つなぐ学会の役割～

(登壇者)

ハートビートプラン | 泉 英明

東京大学大学院 | 吉江 俊

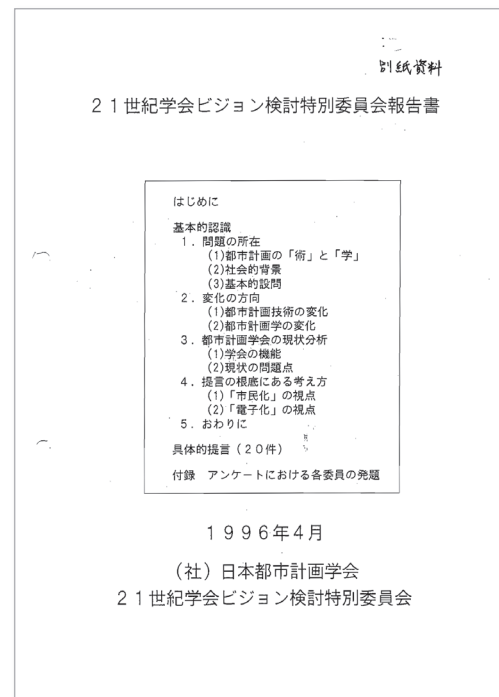
国土交通省都市局 | 高濱康亘

・・・
開かれた都市計画、とは

開かれた都市計画、とは

1996年 | 21世紀学会ビジョン検討特別委員会

- 都市計画の「術」と「学」
- 都市づくりを担う主体の多様化
公共団体のみでなく、民間企業や市町村、さらには住民・市民
- 関連学問分野、都市計画関連学科の増加
- 「官主導の事業」から「合意形成による計画」へ
- 都市計画「技術」の担い手に大きな変化
 - ① 「中央」から「地方」へ
 - ② 比較的少数の「専門家」から圧倒的多数の「非専門家」へ
- 「市民化」の視点
学会の構成員として、研究者・実務家に加え、いかに「市民層」を迎え入れるか／サービスを多様化・高度化するか

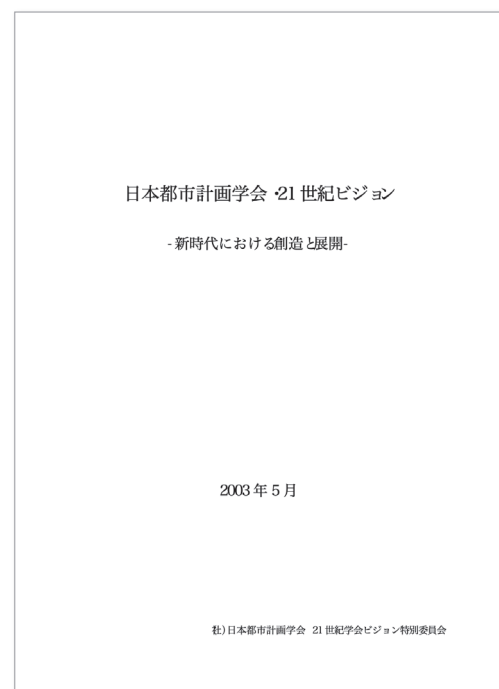


3

開かれた都市計画、とは

2003年 | 日本都市計画学会・21世紀ビジョン

- 「新しい日本の都市のイメージ」
- 多様な生活スタイルの選択を包容する都市
- 多重コミュニティが支える市民社会
- 多様で個性ある豊かな風土が形成される都市社会
- 「日本の都市計画ビジョン」
- 都市計画における公共性概念の転換にねざした社会ルールの再構築
- 地区の発想から始める都市づくり
- 参加と合意形成を促すわかりやすい計画過程
- 公民パートナーシップによる都市開発システム
- 信頼にもとるき市民の価値を代弁する専門家

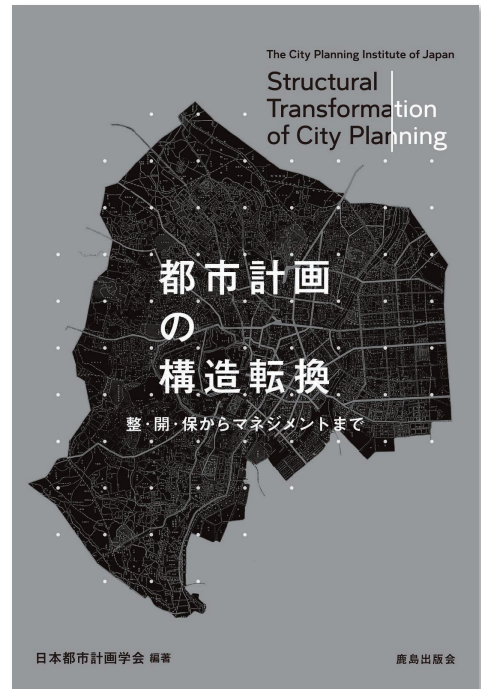


4

開かれた都市計画、とは

2021年 | 都市計画の構造転換

- 小さな公共性への重心シフトは、都市計画が伝統的に目標としてきた広域空間を対象とした大きな公共性とのように兼ね合いをとるか（中井検裕）
- 都市計画の担い手がアーバニストへと転換してきた現代の都市計画制度とは。都市の文化的価値の尊重を明確に保証する必要（中島直人）
- 地区のまちづくり組織がプラン・ルール作成・運営を担うしくみが必要（佐谷和江）
- エリアマネジメント活動によって積極的にまちの価値を高めようとしているエリアを中心に公共投資する時代への移行（小林重敬）
- 土地所有者以外の地域の関係者を含んだ管理運営主体を制度的に位置付ける必要（内海麻利）



5

開かれた都市計画、とは

学会誌『都市計画』

- 2025.05
市民参加・協働によるまちづくりと地域運営のこれから
- 2024.03
令和版 民間都市プランナー論 | これまでの歩み、これからの歩み
- 2023.05
まちづくりにおける地域に根ざしたビジネスの可能性
- 2022.07
場所に基づく都市計画への展望 — 場所の理論と場づくりの実践
- 2020.05
シェアからコラボティブへ：都市における共有／協働



6

開かれた都市計画、とは

2025年 | 成熟都市の共感都市再生ビジョン (国土交通省都市局)

都市の個性の確立と質や価値の向上に関する懇談会 中間取りまとめ 概要

成熟社会の共感都市再生ビジョン (都市再生の方向性)

目指すべき都市再生の方向性

- 我が国は、人口増加局面で量的拡大を追求する成長社会から、**精神的な豊かさや生活の質、価値の向上に重きを置く成熟社会に移行**。
- 建築費の高騰による影響、人口減少等による需要の不確実性を踏まえ、**都市の個性と質や価値に着目し、大都市と地方都市とが連携しながら、中長期的に持続可能な都市の再生を図る必要**。

引き続き、都市の**普遍的魅力**を向上させるとともに、画一化することなく**固有の魅力**を一層高めていくため、官民連携の創意工夫を促し、これを評価することで、都市に人々の「**共感**」を呼び込む施策を推進。

安全性の高さ
利便性の高さ
快適性の高さ
⋮

都市の
普遍的**魅力**

都市の
固有の**魅力**

地域の歴史・文化、自然・景観
本物の雰囲気（オーセンティシティ）
コミュニティ、ローカルビジネス
⋮

子どもから若者・高齢者まで多世代が共創し、多様な価値観を包摂するインクルーシブなまちづくりを進めつつ、両方の魅力をともに高め、育てることが、人や投資を呼び込む都市の磁力の強化に繋がっていく。

| 7

開かれた都市計画、とは

2025年 | 成熟都市の共感都市再生ビジョン (国土交通省都市局)

都市の個性の確立と質や価値の向上に関する懇談会 中間取りまとめ 概要

成熟社会の共感都市再生ビジョン (取り組むべき施策)

1. 協働型都市再生によるウェルビーイングの向上

- 事業環境の変化を踏まえ、限られた事業費の中で収益を最大化する観点から、**魅力的な施設の整備及び管理運営に課題**。
- 脱炭素化等による環境負荷の低減、地域固有の文化の振興等に対応する**都市再生の理念を構築し、ウェルビーイングの向上**を促進。
- 持続的なエリアマネジメント、地方創生、アフオーダビリティの確保等、**ソフト面を含む多様な工夫を講じる公共貢献の評価**を促進。

2. 余白を楽しむパブリックライフの浸透

- 都市に**将来の可変性・柔軟性を許容する「余白」を残す**ことで、**パブリックスペースにおける多様な活動を創出する視点を重視**。
- **ウォークアブル政策とほこみち・交通政策との連携、民地も含むパブリックスペースの更なる利活用、事業初期期の準備段階の充実**を促進。

3. 地域資源の保全と活用によるシビックプライドの醸成

- 登録有形文化財、地方指定文化財、昭和期に建てられた魅力的な建造物など、**毀損・滅失の危機にある地域資源をまちづくりに活用**。
- **シビックプライドの醸成による域内への磁力の強化、国内外の観光客の誘客による域外から稼ぐ力の強化・保全への再投資が必要**。
- 関係省庁で連携して、**歴史まちづくりの裾野の拡大、将来的な活用を前提としたエリア価値を高める地域資源の保全**を促進。

4. 業務機能をはじめ多様な機能の集積による稼ぐ力の創出

- 都市は、**創造的活動を活性化する「共創の場」**として、ヒト・コト・アイデアが集い、出会い、新たな価値やイノベーションを創造・創出する舞台。
- 立地適正化計画に業務機能をはじめ様々な機能を位置付ける等により、**居住機能との近接性の確保による居住者の利便性向上**を促進。

5. 共創・支援型エリアマネジメントによる地域経営

- エリアマネジメント団体は、**主体的に地域に関わり合いながら、居住者や来訪者等と新たな価値や営みを共創し、地域経営を担う存在へ**。
- **計画段階から将来的な管理運営を見据えた仕組みづくりや、エリアマネジメントの官民協調領域を位置付けた活動計画の策定**を促進。

| 8

開かれた都市計画、とは

着眼点

「主体」と「プロセス」

- 1 | 「都市」をつくる主体の多様化
- 2 | 「都市」つくるプロセスへの比重の高まり

| 9

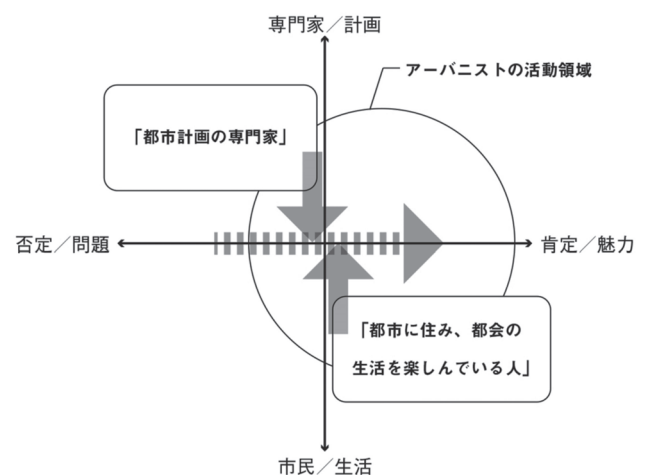
「都市」をつくる主体の多様化

- 都市計画の重要な担い手としての「アーバニスト」
- アーバニストの両義性（中島直人、2021）

- ① 都市計画の専門家
- ② 都市に住み、都会の生活を
楽しんでいる人



- ②だけでは都市計画の担い手とは
ならない
- 都市を「生きる」から「つくる」
へ向かう道筋が必要



出典 | 『アーバニスト—魅力ある都市の創生者たち』中島直人ら、ちくま新書、2021

都市計画とアーバニストとの
関係性はどうあるべきか

| 10

「都市」をつくるプロセスへの比重の高まり

- 都市計画学会創立に際して石川栄耀は「都市に対する社会感情を感得する役」を会員たちに期待（学会誌、1952）



- 個々の意見に対応する合意形成の高度化が重要
- デジタル技術の活用に大きな可能性



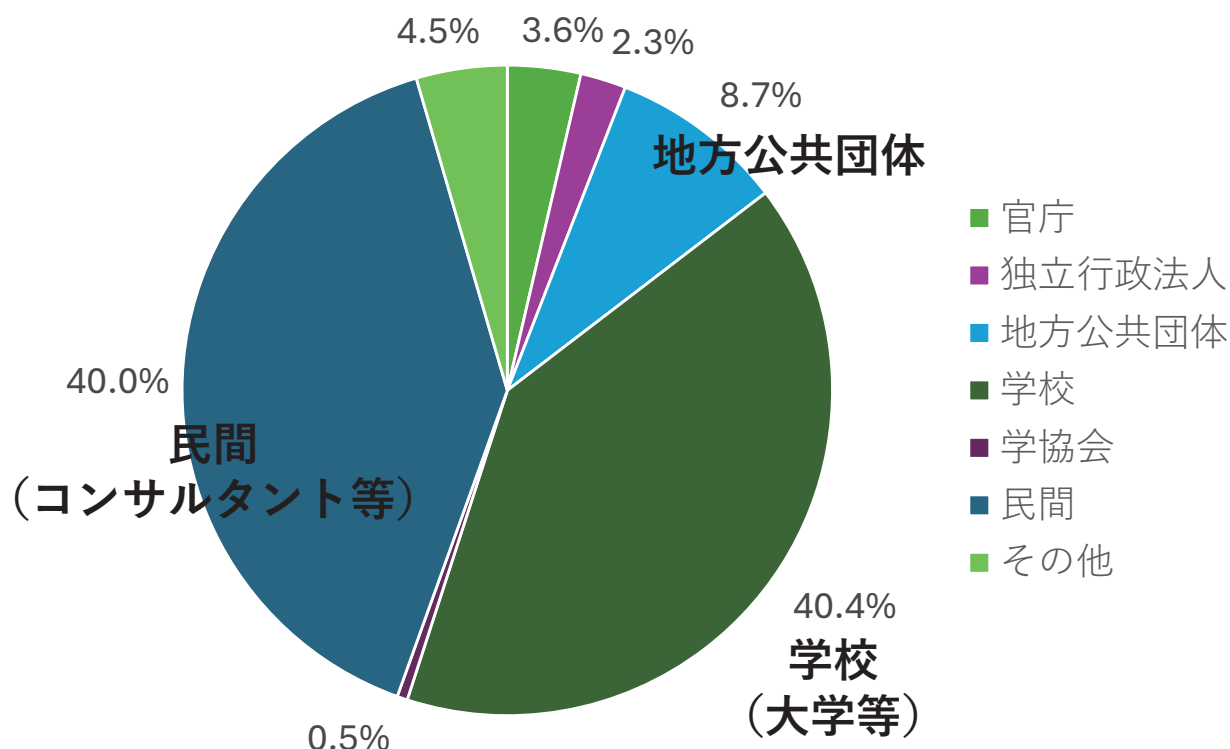
- 意見がただ集まるだけでは都市計画にならない
- 価値判断と、計画を実行する者が必要



計画に対する価値判断の正当性や、
計画を実行する主体をどのように考えるべきか

日本都市計画学会の役割

日本都市計画学会 会員構成 (2024年 / N=4,404)



出典 | 日本都市計画学会

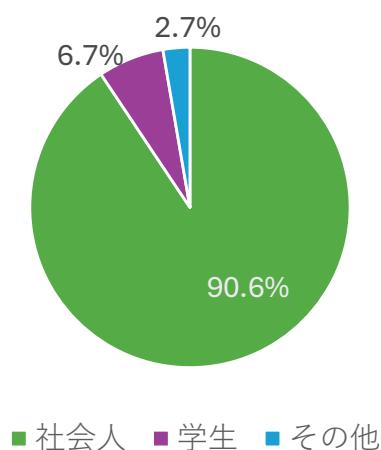
| 13

日本都市計画学会 非会員の状況

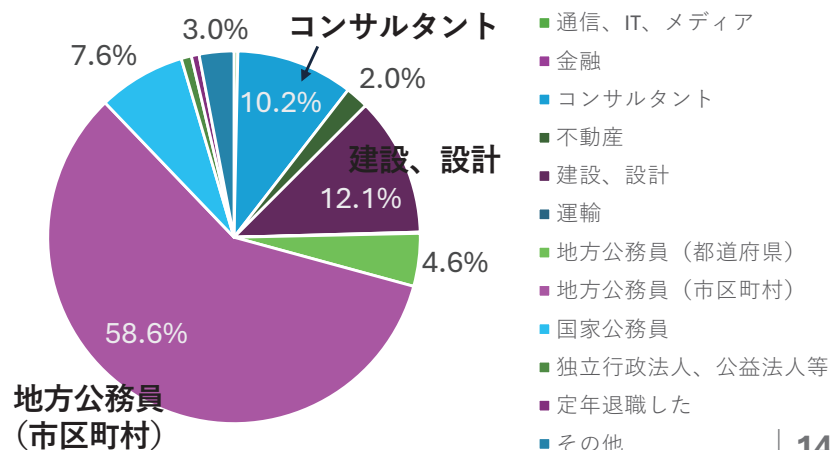
非会員アンケート

- 調査期間 | 2025.10.08 - 2025.10.24
- 対象 | 非会員の都市計画実務者、学生 等
- 回答数 | 960 件

社会人 or 学生 N=960



職業 N=896 〈社会人〉

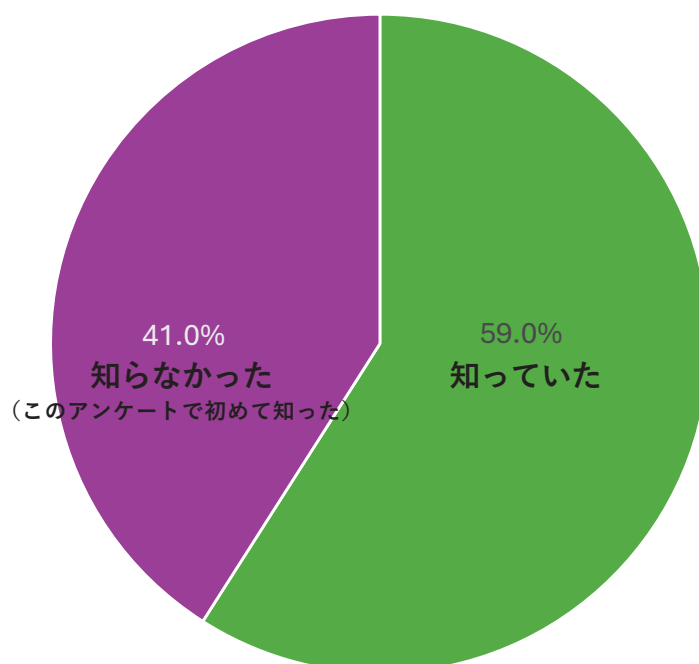


| 14

日本都市計画学会 非会員の状況

非会員アンケート

日本都市計画学会をご存知でしたか N=896

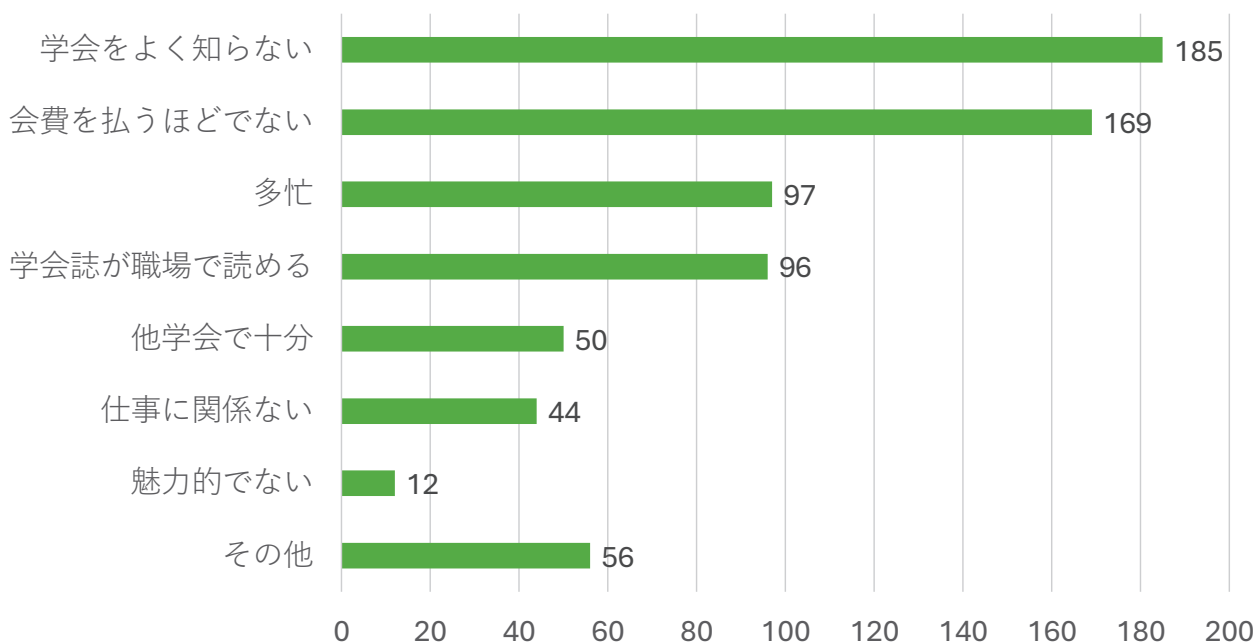


| 15

日本都市計画学会 非会員の状況

非会員アンケート

会員でない理由 N=529 〈知っていた人〉 (複数回答)

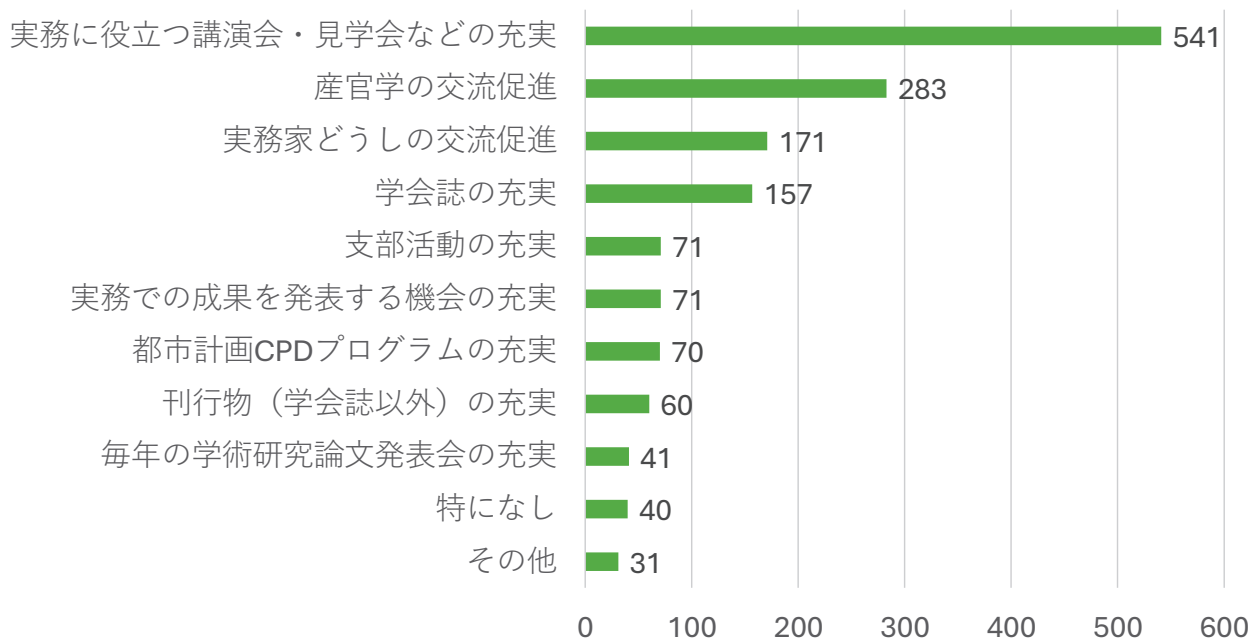


| 16

日本都市計画学会 非会員の状況

非会員アンケート

学会への期待や希望 N=896（複数回答）



17

日本都市計画学会 非会員の状況

非会員アンケート

学会活動に関する積極的な提案 N=81（自由回答）

（主なものを抜粋）

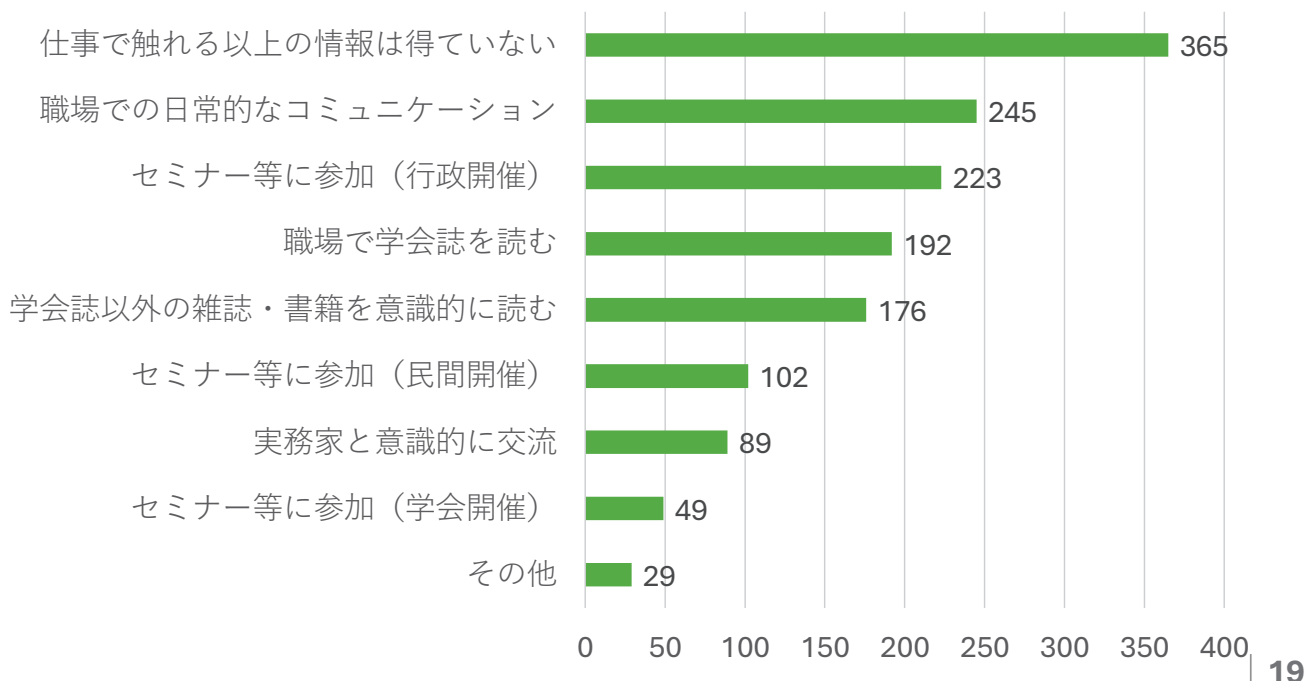
- 「都市計画」と聞くと、専門家ではない一般市民にとっては敷居が高いため、身近な事柄と結びつけたワークショップや催しをするなど、興味を持ってもらう人の裾野を広げる活動を期待します
- 同世代での実務者同士で集まれる機会を学会側が準備してくれるような形。堅苦しいものではなく、楽しく交流しながら学びや意見交換もできる会を希望します
- 学術以外で、実務をやっている人を積極的に勧誘し、最新知見を勉強できるようにする。産官学が集まれる場となるようにする
- ぜひ都市計画という職能に対しての社会的な認知度と評価を高める活動をお願いします
- 会員で閉じているコミュニティから、ボーダーレスな擦り合わせへの展開をやってください

18

日本都市計画学会 非会員の状況

非会員アンケート

都市計画の最新トピックや専門知識の入手 N=896（複数回答）



日本都市計画学会 非会員の状況

非会員アンケート

- 日本都市計画学会の存在が非会員にあまり知られていない
→ **学会そのものの知名度の向上や、活動内容の周知が必要か**
- 一般的な市民にも都市計画に興味を持ってもらうなど裾野の拡大を期待する声や、都市計画実務者どうしの交流の機会の創出を期待する声がある
→ **市民や実務者との交流機会の促進に向けた取り組みが必要か**
- 都市計画に関する最新のトピックや専門知識について、仕事や職場で触れる以上の情報を入手していないという回答が多い
→ **都市計画実務者の専門性確保を支援する取り組みが必要か**

**非・専門家も含めた交流促進を
いかに進めるべきか**

ディスカッションの視点

テーマ3 | 開かれた都市計画

～専門家とアーバニストの領域、つなぐ学会の役割～

都市計画とアーバニストとの
関係性はどうあるべきか

計画に対する価値判断の正当性や、
計画を実行する主体をどのように考えるべきか

非・専門家も含めた交流促進を
いかに進めるべきか

セッション3 開かれた都市計画
専門家とアーバニストの領域、つなぐ学会の役割

〈開かれた都市計画〉 にむけて——3つの論点

吉江俊
東京大学
大学院都市工学研究科

「新しい無手勝流」の時代？

19世紀～20世紀初頭

無手勝流の
都市づくり

近代化と都市問題の噴出
理想都市の追求

弁護士・医者・政治家など
社会改良から都市計画へ
プレ・ユルバニズムの時代

「新しい無手勝流」の時代？

19世紀～20世紀初頭

無手勝流の 都市づくり

近代化と都市問題の噴出
理想都市の追求
弁護士・医者・政治家など
社会改良から都市計画へ
プレ・ユルバニズムの時代

20世紀

都市計画の 専門化・専門分化

制度・手法の体系化
大学における学科の設置
専門家による都市計画

Shun YOSHIE, The University of Tokyo

3

「新しい無手勝流」の時代？

19世紀～20世紀初頭

無手勝流の 都市づくり

近代化と都市問題の噴出
理想都市の追求
弁護士・医者・政治家など
社会改良から都市計画へ
プレ・ユルバニズムの時代

20世紀

都市計画の 専門化・専門分化

制度・手法の体系化
大学における学科の設置
専門家による都市計画

21世紀

多様な人びとの参入 新しい「無手勝流」？

大企業から小さなベンチャー
まちづくりを専門として
こなかった人びと
小さな集団が地域を変える
希望も問題も見えてきた

〈開かれた都市計画〉へ？

Shun YOSHIE, The University of Tokyo

4

1 ふたたび、無手勝流の都市計画へ——その先は？ 〈開かれた都市計画〉への期待

- ・都市計画の第3段階へ

19世紀末～20世紀初頭 様々な主体、社会改良家の都市計画
20世紀～21世紀初頭 近代都市計画の制度、職能、理論の確立
21世紀初頭～ 再び、様々な主体による（広義の）都市計画へ

- ・アーバニズム、アーバニスト

実践者と生活者の連続性が強調される 計画者でありながら、住み手でもある
「実感的・経験的な次元」の重視 マクロとミクロの架橋

- ・近代都市計画の出発以来の自己矛盾の克服？

数十万人を相手にする都市計画と、ひとりひとりの人間存在を
同時に考えることができないという葛藤、

生活実感の価値（使用価値）と投資価値（交換価値）の隔たり

→「プランナーでありながら生活者である」参加者たちが克服しつつある？

2 何が「開かれる」のか？ 「開かれる」ことのいくつかの次元と集団スケール

- ・「開かれる」とは何か？

ワークショップ、住民参加の知見は蓄積されてきた
→しかし肝心なところはブラックボックス化している場合もある
参加の梯子の下の方だけが開かれている？

- ・Chat GPT等で「総専門家時代」になるという言説

解像度の高い「それぞれの主観」を集める技術は進展するだろう／DICIDIMからの展開
→いまのところ、扱えるのは「個別の合理性」まで
個別の合理性の多数決は全体合理性ではない（≡合成の誤謬）
複数の合理性のすりあわせの部分に、都市計画の核心がある

- ・人間集団のスケールと「開かれ」の在り方

総合計画レベルでは、デジタルプラットフォームの意見収集はありうる
複数の合理性のすり合わせが開かれるのは、より小さなコミュニティ単位か

3 多様性の〈間〉をつなぐプランニング 「やわらかいものさし」とデータベース

- ・多様で開かれた都市計画の「横串」や「共通基盤」は？
すべてを統一する「大きな物語」ではなく、星を繋ぐ星座のようなナラティブ
それぞれの実践・主体を調停する〈メタプランニング〉の必要性
そのときのビジョン、ものさしは？
- ・経済一辺倒でないビジョン、価値観の醸成
いまだ研究が必要な分野で、企業の努力に一任するだけでなく、
都市計画学会としてのバックアップが必要
- ・ものさしの多様性、KPIの多様性がまちの個性をつくる
経済資本だけでなく社会資本、社会関係資本、文化資本、あるいは場所資本、
感情資本など…様々なアウトカムを測る指標が必要
→データ入手の困難さ、それぞれの主体が個別に苦戦して行っている状況
ここに横串を指すプラットフォームを誰が用意するのか？